

平成29年度 安全計画

平成29年度 目標

「お客さま、社員、協力会社社員の死傷事故0」
「運転事故、インシデント0」

○定量的な目標

項 目	目 標
お客さま、社員、協力会社社員の死亡事故	0
お客さま、社員、協力会社社員の傷害事故	

区 分	項 目	目 標
運 転 事 故	列車事故(衝突・脱線等)	0
	人身障害事故	
	踏切障害事故	
	鉄道物損事故	
	インシデント	

○安全方針及び安全に係る行動規範

安全方針

1. 私たちは、安全は事業の根幹であるとの信念のもと、お客さまの安全を最優先します。
2. 私たちは、安全に関する法令及び規程を遵守し、全社員一丸となって安全の確保に取り組みます。
3. 私たちは、P D C Aを確実に実施し、継続的な改善見直しを行ない、常に安全性の向上に努めます。
4. 私たちは、安全で安定した輸送を変わらぬ使命とし、お客さまに信頼され、地域に愛されるしなの鉄道を目指して挑戦します。

安全に係る行動規範

1. 一致協力して輸送の安全の確保に努める
2. 輸送の安全に関する法令及び関連する規程をよく理解するとともにこれを遵守し、厳正、忠実に職務を遂行する
3. 常に輸送の安全に関する状況を把握し、理解するよう努める
4. 職務の遂行に当たり、推測に頼らず確認の励行に努め、疑義のある時は最も安全と思われる取扱いを行う
5. 事故・災害等が発生した時は、人命救助を最優先に行動し、速やかに安全適切な処置をとる
6. 情報は漏れなく、迅速、正確に伝達し、透明性を確保する
7. 常に問題意識を持ち、改革に果敢に挑戦する

1.安全マネジメント体制の充実・強化を図る

全社員が安全方針を理解し、安全確保のために「自ら考え、自ら行動する風土」を創りあげていきます。

経営トップ、役員および各安全管理者※は「三現主義」に徹し、本社・現場間のコミュニケーションを深め、現場社員、協力会社社員と一体となって、安全のPDCA(継続的な改善見直し)を確実に実施して安全の確保に取り組みます。

《具体的取り組み》

- (1) 全社員説明会、安全大会、現場巡回等で、安全方針の理解と周知徹底を図ります。
- (2) 役員による現場安全総点検および各安全管理者※による現場巡回を実施します。
- (3) マネジメントレビュー、安全内部監査で安全マネジメントが有効に機能しているかを確認します。
- (4) 安全推進委員会で、安全重点施策の策定、進捗状況の把握と改善を実施します。
- (5) 現場長に対して「運輸安全マネジメント制度」についての教育を実施します。
- (6) 協力会社も参加した安全大会を開催します。
- (7) 好事例の表彰および社内への水平展開を図ります。

※各安全管理者とは、弊社安全管理規程に定められた、安全統括管理者、運転管理者、乗務員指導管理者、施設管理者、車両管理者、経営管理者を言います。

2. 安全の重要性の理解と安全に対する感性を磨く

事故の悲惨さ、事故の恐ろしさを学び、安全の重要性を理解し、安全の確保のための具体的な行動につなげ、安全に対する感性を磨いていきます。

事故を未然に防ぐための危険を予知する「気づく力」、そして予知した危険を取り除くための「考える力」を醸成していきます。

安全は命を守ること。安定は列車を正確に運行させること。鉄道にとってはどちらも重要なことですが、安定を重視するあまり安全が疎かになり、人命が脅かされることになりかねません。安全確保のために、「危ないと感じたら列車を止める」をすべての社員に徹底します。

《具体的取り組み》

- (1) 安全推進委員会、安全大会、訓練会、勉強会等で、過去の事故(坂城事故)、他山の石等の資料やビデオ教材を活用し、「事故の悲惨さ、恐ろしさ」を浸透させます。
- (2) 「現地を見る、体験する、イメージして考える。」の取り組みを実施し、予兆感性、危険予知能力を磨き未然事故防止に努めます。
- (3) ヒヤリ・ハット情報にリスクアセスメントを導入し、事故発生の可能性と、事故が発生した場合の重大性を数値化し、その数値に応じたリスクの低減措置を講じます。またその情報を水平展開し、未然事故防止に取り組みます。
- (4) 自箇所に関わる危険を洗い出し、ひとつひとつ危険を取り除いていきます。
- (5) 列車を止める手段、止めるべき状況等の教育を過去の事象等を活用し実施します。

3. 部内原因による事故・事象の撲滅と外的要因によるリスクを低減させる

当社および協力会社の原因(部内原因)による事故・事象および繰り返し発生している事故・事象は、徹底的に原因を究明し、有効な対策を立て、確実に実行するとともに、設備、教育・訓練、ルールの見直し等あらゆる手段を活用しながら撲滅します。

ちょっとした気の緩み、慢心によるルール違反等が重大事故につながり人命を脅かすこととなります。「ルールの成り立ち」を学び「ルールを守る」ことの重要性の理解と確実な実行を徹底します。

局地的豪雨、大雪等の自然災害等(外的要因)発生後の被害を最小限にするため、気象状況の事前把握による出動体制の準備、倒木、落石、落雪、土砂崩壊等の危険個所の把握と対策によりリスクを低減させます。

《具体的取り組み》

- (1) 安全推進委員会で、出席者全員で議論し徹底的な原因究明と再発防止策及び未然防止策を策定します。
- (2) 役員、各安全管理者、現場管理者が作業実態とルールの乖離を確認し、乖離があった場合は、その乖離をなくします。
- (3) ルールや作業手順等の「成り立ち、本質(なぜ、そうなっているのか、なぜ、行うのか)」を理解させる教育を実施します。
- (4) 「安全ABC※キャンペーン」を実施し、ルールの厳守を徹底します。
- (5) 机上による教育・訓練だけでなく、JR長野総合訓練センターでの運転シミュレータを使用する乗務員訓練、駅に設置されている補助制御盤を実際に使用する駅社員訓練等、実践的な訓練を実施します。
- (6) 現場社員からの現場状況報告、気象情報会社等からの自然災害情報等の積極的な収集と正確な状況把握を行い、関係箇所と連携して迅速かつ適切に対応し、外的要因によるリスクを低減します。
- (7) 設備等の計画的な点検・整備・処置を行います。
- (8) 県、市町村、警察、消防、JR等と連携した総合防災訓練、脱線復旧訓練等を通じて異常時対応能力を養います。
- (9) 異常時における列車の遅れ等の運行状況は、報道機関、沿線自治体、学校等関係機関と連携し、メール配信システム等により的確、迅速かつタイムリーな情報を提供します。

※安全のABCとは、A=当たり前のことを、B=ばかにしないで(ぼんやりしないで)、C=ちゃんとやる。の意味。

4. 計画的な施設・設備の維持更新を行う

経年による設備の劣化、老朽化に対処するため検査修繕を計画的かつ確実に継続実施していきます。また、将来の老朽化に備え、中長期的な設備整備計画の策定を行い、実効性の高い設備の維持、更新体制を構築し計画の推進を図ります。

《安全設備整備計画》

ア. 設備投資

(単位：百万円)

総 額	内 訳	
	線路・電気	車両
1,110	1,059	51

主な件名

《線路・電気》

- ・木製マクラギのコンクリートマクラギ化 (42)
- ・ホーム扛上の詳細設計 (14)
- ・変電所の機器更新 (90)
- ・電車線支持物の建替工事 (81)
- ・電子連動装置の取替 (163)
- ・各種通信回線搬送装置の更新 (50)

《車両》

- ・デジタル列車無線装置の改造 (51)

イ. 検査修繕

(単位：百万円)

総 額	内 訳	
	線路・電気	車両
1,023	561	462

- ・線 路・・・線路および土木構造物（橋梁等）の検査修繕
- ・電 気・・・電力および信号通信設備の検査修繕
- ・車 両・・・各種検査（全般検査、重要部検査等）修繕